

第2回秋葉区支え合いのしくみづくり会議 まとめ

【日 時】令和6年3月13日（水）10：00～11：30

【会 場】新津地域交流センター 2階 201・202研修室

【出席者】

米田構成員、小林（恵）構成員代理、南波構成員、豊島構成員、重松構成員、吉井構成員、明田川構成員、佐々木構成員、阿部構成員、相馬構成員、羽生構成員、今井行政担当、坂井事務局長、横山事務局長補佐、小林 SC、加藤 SC、時田 SC、吉岡 SC

1

第2層支え合いのしくみづくり会議報告について

ご意見

- ・緊急情報キットは地域で活用されていると思うが、具体的な活用例を示していくと、地域へ理解が広がると思う。
- ・緊急情報キットの利用数など、統計データがあれば知りたい。
→利用数は確認していない。
地域ごとに合った取り組み方を考えてもらっている。課題などは構成員・地域と検討をしていきたい。
各地域の特徴や取り組みの優先順位は異なってくるが、自主防災等において災害時の取り組みとして緊急情報キットを活用していただくような声かけを行っている。
構成員の皆さまのご協力をいただきながら今後も進めていきたい。

2

認知症に関する取り組みについて

令和5年度の取り組み

- ・チラシ作成、周知
- ・チラシを活用した周知
- ・支え合いのしくみづくり1・2層合同研修会
- ・地域の様々な取り組みにおける認知症理解の推進
認知症に関する講座、サポーター養成講座、総合的な学習の時間、見守り活動 等
- ・秋葉区認知症講演会（秋葉区と共催）

ご意見

- ・町内で認知症サポーター養成講座を開催したい。
参加しやすいように、土日の開催が良い。
→開催については社協や包括へ相談してほしい。
申込みは介護福祉士会にて対応可能。
- ・秋葉区認知症講演会のDVDを秋葉区役所より貸し出すことができるので、活動の一助としてほしい。
- ・認知症について、関心が後ろ向きな人をどう前向きに持っていか、どう伝えていく

かが課題である。

- ・情報を発信していくことが支え合いのしくみづくり会議の役割だと考える。
- ・学生・若い世代に考えるきっかけを持ってほしい。
- ・社協等が講演会等を開催した際に、地域が参加し、当事者意識を持つことが大事である。
- ・総合相談窓口は包括だと思うが、相談機関や相談後どのような支援につながるかを、はっきりすると良いと思う。
- ・認知症は誰もがなり得るものであり、支え合いのしくみづくりを検討していくことで、地域で安心して暮らし続けていくことができるようになる。

→認知症に関する取り組みは、来年度も引き続き、皆さまと共に取り組みを進めさせていただく。

秋葉区社会福祉法人等ネットワークについて

ご意見

- ・取り組みについて、意見等なし。

3

令和6年度の取り組みについて

○認知症の取り組みについて

- ・本日出た意見を含めて、取り組みを継続して進めていく。
- ・キャラバンメイトの養成を促進していくために、行政からもご協力をいただきたい。

ご意見

○身寄りなしについて

- ・身寄りなしの方の救急隊の対応が難しい。
- ・構成員や救急隊、医療関係者、ケアマネジャーを交えて、何が課題なのかを共有していきたい。
- ・秋葉区で研修会のような機会があると良い。
- ・医師は、服薬の情報のため、おくすり手帳の写しが緊急情報キットに入っていると良い。
- ・むすびあい手帳や緊急情報キットを活用していきたい。
- ・地域包括支援センター（以下包括）には民生委員などの地域からの相談が多い。
- ・民生委員が救急車の同乗を求められ、断ると搬送を断られるため、義務はないが付いて行かざるを得ない状況になる。
- ・包括新津では来年度、地域でどのようなことができるのかを考えていくことに主眼を置いて検討したいと思っている。
- ・地域の方に身寄りなしの現状を知っていただきたい。
- ・2層の支え合いのしくみづくり会議でも意見をあげていく予定。

→来年度、2層から1層へこの課題があがってきた場合、現状の把握や課題の確認方法を皆さまと検討させていただきたい